

3日 金曜

ヨハネ



1:19 さて、ヨハネの証しはこうである。ユダヤ人たちが、祭司たちとレビ人たちがエルサレムから遣わして、「あなたはどなたですか」と尋ねたとき、

1:20 ヨハネはためらうことなく告白し、「私はキリストではありません」と明言した。

1:21 彼らはヨハネに尋ねた。「それでは、何者なのですか。あなたはエリヤですか。」ヨハネは「違います」と言った。「では、あの預言者ですか。」ヨハネは「違います」と答えた。

1:22 それで、彼らはヨハネに言った。「あなたはだれですか。私たちを遣わした人たちに返事を伝えたいのですが、あなたは自分を何だと言われるのですか。」

1:23 ヨハネは言った。「私は、預言者イザヤが言った、『主の道をまっすぐにせよ、と荒野で叫ぶ者の声』です。」

1:24 彼らは、パリサイ人から遣わされて来ていた。

1:25 彼らはヨハネに尋ねた。「キリストでもなく、エリヤでもなく、あの預言者でもないなら、なぜ、あなたはバプテスマを授けているのですか。」

1:26 ヨハネは彼らに答えた。「私は水でバプテスマを授けていますが、あなたがたの中に、あなたがたの知らない方が立っておられます。

1:27 その方は私の後に来られる方で、私にはその方の履き物のひもを解く値打ちもありません。」

1:28 このことがあったのは、ヨルダンの川向こうのベタニアであった。ヨハネはそこでバプテスマを授けていたのである。

このヨハネは、福音書を書いたヨハネではなく、バプテスマのヨハネです。彼はまだ無名であったイエス様に人々に紹介したのです。彼ももとに多くの人々が悔い改めのバプテスマを受けに来ていたので、その証言には力がありました。

しかし彼は自分を過大評価していませんでした。彼は単なる「荒野で叫ぶ者の声」であると、自分自身を理解していたのです。正しい信仰を持っている彼は、イエス様の前には奴隷以下の存在であると知っていたのです。「くつのひもを解く」とは奴隷の仕事だからです。

私たちも、自分自身が神の前には小さな存在にしか過ぎないことをよくよく理解しましょう。何か自分が偉い者のように思ったり、有能な者のように思ったり、または成し遂げた者のように思うなら、それは間違いであって、神様からそういうものは認められないことを知しましょう。

私たちがこの世に生きている目的は、自分を救ってくださったキリストを紹介するためですが、本当にキリストを紹介できる人はキリストの絶大なる価値を知っている人です。そのような人は当然自分の値打ちなど取るに足りないものを知っているはずです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

